

栗原	栗原市築館薬師	0228(22)3163	FAX 0228(22)1679
小牛田	美里町牛飼清水江	0229(33)2204	FAX 0229(33)3301
加美	加美町北町	0229(63)2115	FAX 0229(63)3597
岩沼	岩沼市桑原2丁目	0223(22)2215	FAX 0223(22)2792
大河原	大河原町幸町	0224(52)1173	FAX 0224(52)1182
白石	白石市鷹巣東4丁目	0224(25)2201	FAX 0224(25)2516
角田	角田市角田中島上	0224(62)1568	FAX 0224(62)0707

読者相談室

月一金曜9:30~17:30
022(211)1447

配達問い合わせ

022(211)1302



石巻・牡鹿 被災女性ら昨年11月に手作り工房

エコたわし 再起支える

東日本大震災で被災した石巻市牡鹿地区の女性たちが、仕事や交流の場づくりを目指し、アクリル製毛糸で「エコたわし」を編んで販売する活動に励んでいる。女性たちの

多くが担っていた浜の仕事が津波被害で激減する中、仮設住宅でもできる手仕事は家計を助けるだけでなく、被災者の日々の生活の張り合いにもつながっている。

洗剤を使わなくても済む「エコたわし」作りに取り組みしたのは、自宅や仕事を失った50〜70代の女性ら14人です。おしかエコたわし工房「海だより」。たわしは水産業復興の願いを込めた魚の形をしており、県内外の企業・団体や個人に1個300円で販売している。

メンバーは家事の合間などに製作し、工房が2500円で買い取る仕組み。メンバーには「小色とりどりの「エコたわし」を編む女性たち。時折集まり、話に花を咲かせる」昨年12月、石巻市十八成浜

魚形1個300円、既に1万個出荷

深まる交流 生活に張り

遣い程度でも収入になるのはうれしい」「交流を通じ友達が増えた」と好評だ。「編んでいる時は大変なこと忘れられる」との声も上がる。

たわし作りは、牡鹿地区に親類がいる学校教諭鈴木優子さん(59)と、友人の主婦高橋由美子さん(66)とともに仙台泉区Ⅱが呼び掛け、昨年5月に始めた。

10月までは高橋さんらが買い取り、人脉を生かして販売したが、11月にメンバーが5000円ずつ出資し工房を設立。販路も自前で確保する態勢で独り立ちした。買い取り数は5月以降の通算で1万個近くに達する。

工房代表で、鮎川浜の自宅が流されて仮設住宅に暮らす主婦斎藤肇子さん(62)は「カキむきといった浜の仕事もほとんどない。多くのファンもできた取り組みをできるだけ続けたい」と話す。

携帯電話を拭けるストラップ(3000円)もある。連絡先は工房事務局長の遠藤信子さん(090-79930)6073。